

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社 すえ広企画		
事業所名	グループホーム じーちゃん・ばーちゃんのお家		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301016-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成24年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者側に立って、考える事をモットーとし、ホームでの生活が本人にとって居心地が良く、生き生きと生活して行けるよう、スタッフが全員同じ考えでケアする事を目指している。施設を感じさせない建物や芝生の庭にベンチとテーブルがあり、天気の良い日には外での食事を楽しんだりでき、鶴山公園の桜や夏の花火が良く見える。四季を通し、景色を楽しむ事ができる。又、隣には畑があり、野菜の収穫も一緒に行っている。

鶴山城を望む津山駅に近い市街地に在り、神南備山を借景に広い庭のある自然豊かな環境で、生活利便も良い。外観から2世帯住宅に見える建物は「笑顔がいっぱい私のお家」の思いが集約された2ユニットである。津山市内では介護保険施行後早い段階から開所した、温かみが感じられるホームで「あきらめを希望」に変えられるようにと、利用者と家族の思いを大切に、介護サービスに満足していただくケアを目的としている。津山市内の脳外科と提携しており、認知症の専門的指導・支援が期待でき、家族・入居者は安心である。菜園で採れる野菜を使う家庭料理は入居者の大きな楽しみになっており、職員の優しい言葉と入居者の笑顔が印象的である。室内は完全にバリアフリーで、転倒防止だけでなく、移動の安全・体力維持とホーム内交流に役立っている。パティオに続く総ガラス張りのラウンジは四季の変化を楽しむことが出来る。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引き継ぎの前に当ホームの理念「地域との交流を持ち諦めを希望に変える様に支援致します」を声に出し唱え、入居者の方達が自信を持つにはどの様にしたら良いかを常に研究し、努力している。	理念は事務室に掲示され、職員は朝の申し送り時などに理念を復唱し共有している。「あきらめを希望に」のプラス思考は職員にはしっかり伝わっており、その主旨を身につけて、介助を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が散歩の途中に声を掛けて下さったり、小さい子供達との触れ合いも楽しみにしている。近所から皆さんで、柿や無花果等を頂いたり、又、ホームで作ったゆずジュースをさし上げたりと交流が広がっている。	町内会に加入し、大掃除等町内行事には積極的に参加している。また近隣の人が旬の野菜を持って、よく立ち寄ってくれる。小学校との交流もあり40名からの小学生が来訪し、地域の子供たちとの触れ合いを大事にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー実習の受け入れや医療関係者の見学、地域の方の見学等を通し、ホームでの工夫や対応の仕方等を話し合いながら教えたりしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者に関する活動内容報告並びに職員に関する活動内容及び家族への勉強会等を行っている。又、家族、市、職員と共に話し合いながらサービスの向上に努めている。	市担当者・家族・職員は出席しても地域関係者の出席が少なく、入居者の近況を報告し、虐待・終末ケア・インフル予防等を報告、相談している。運営委員には会議録を送っている。	運営推進会議メンバーの参加が拡大されるよう、参加呼びかけに工夫がなされ、運営推進会議の中でも会議開催の方策を検討されますことを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、市との連携を常に持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の包括支援センターとは常時連絡を取り、困難事例等を検討したり、市から若年認知症の受け入れを依頼されることもある。相談の記録からは行政との信頼関係が深い事が読み取れる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が会議の中で、話し合いを持ち、禁止事項を事務所に貼り、身体拘束をしない・ならないような工夫を常に考え、取り組んでいる。	身体拘束禁止事項を張り出し、職員に徹底している。理念を語る前に正しい倫理観保持が大切とし、身体拘束防止に付いて常時事例検討し、内部研修を進めている。今まで、拘束の事例はない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者、職員は高齢者虐待防止法を学び事業所内での虐待及び帰宅された時、虐待がなかったか等調べている。利用者への言葉掛けにも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び、成年後見制度について学び、活用している。必要としている家族に対し支援し、今現在制度を活用している家族に対し援助している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡しており、契約の時には質問等を受ける時間を取り、説明を行っている。改定等の際には、運営推進会議の中や書類で説明をし、いつでも質問が受けられるようにして、納得が出来るように図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通し、家族、管理者、職員、市職員等の出席により意見、要望等を受けながら運営に反映させている。	施設長は出来るだけ家族と顔を合わせ、アットホームな雰囲気の中でざっくばらんに話し合っている。入居者のみでなく、家族の状況等も相談に乗り、その内容を運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議及びミーティング並びに主任会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。会議録には、全員が周知した型として印を押している。	社長は来訪時、職員ときさくに懇談し、意見・要望を聞いている。施設長・管理者・職員間の風通しは良く、具体的には管理者・主任を通じて意見を伝え、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の努力、実績、勤務状況の把握、及び各自が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内外部及びキャリアアップ研修を取り入れ、月1～2回の研修を行っており、職員同士、声を掛け合い、熱心に研修をしている。資格取得に向けた研修や、実技による研修参加も行ってきた。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加しサービスの質の向上に積極的に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し安心して過ごして頂けるよう毎日の申し送りで伝え、より良い関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長、管理者は、電話や面会時に声をかける事で、家族等が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、可能な限り相談に乗れるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、相談の上随時、サービスの変更が出来るよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花の水やり、花壇の手入れ、畑での収穫及び畑仕事、買い物同行、散歩、食事の下準備、洗濯物干し、後片付け、手すり・ソファー拭き等、出来る事は職員といつも一緒に行うよう努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から、外泊、外出の申し出や本人から家庭への電話の要望、体調不良の連絡や面会等には、家族・本人の絆を大切にし関係を保っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お祭り等で知り合いに会えるように支援したり、一緒に写真を撮ったり、はがき、手紙、電話、面会等が出来、又、馴染みの人や、馴染みの場所の情報を伝える事により、関係が保たれるよう支援をしている。	祭りがある等の情報を伝え、その人の思い出多い、懐かしい人や場所の近くに行ったり、寄ってみたりしている。実家の近くまでドライブで行き、知った人とのツーショットの写真を差し上げ、なじみの関係継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員はいつも気にかけて良い関係が保たれるように席替えをしたり、孤立しない様に、話に誘い一緒に話をしながら、個人個人を大切に支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方や家族から声をかけられてもらえるような支援をしたり、相談を受けたり出来る様に、訪問、面会、手紙等を出すように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に話をする機会を出来るだけ作り、今の思いとどんな暮らしを望んでいるか、会話を楽しみながら把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩の時、入浴時の一人ひとりへの言葉掛けは優しい。食事の時にタイミングを見て話しかけたり、家族や入居者に困っていることはないかと問いかけ、入居者個々の思いを把握するように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について家族の情報や支援事業所等からの情報の把握をするよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力の現状を毎日の生活を通し、スタッフ間で情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員とミーティング、申し送りで話し合いながら意見、アイデアを生かし個人に即した方法や本人の気持ちを第一に考えた介護計画を作成するように努めている。	部屋担当職員を定め、家族・入居者と共に入所後一ヶ月目にはアセスメントを進め、「出来ること、できないことシート」を作り協働して計画を作成している。定期的モニタリングを行い、計画を見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌を2種類使用し、その方に合った日誌はどちらかをミーティングで話し合い、より細やかな現状を拾えるよう、又、計画を立てる上で担当者が中心となりアセスメントをし、計画を立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況及びその時々生まれるニーズに対応できるよう、余裕のあるスタッフの人数と、サービスの多機能化を考え工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている祭りに参加したり、ボランティアの来所にて踊りを一緒に踊ったり電子ピアノにて歌を唄う事を通して本人の力を発揮でき安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の要望を大切にし納得が得られたかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう同行したり、手紙を添えたりして支援している。又、1週間の体調を記録した受診カードで支援をしている。	家族・本人の希望を汲んで、看護師と相談しながら、かかりつけの医者に掛れるように支援している。通院付添いは出来るだけ家族にお願いしているが、インフルエンザの時等は協力医が往診してくれる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は密に連携を取り利用者が適切な受診や、往診看護が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換及び相談に努め病院の入院、退院時には添書の交換を行っている。又、退院にあたっては、病院に行きホームでの生活がスムーズに出来るよう情報を貰って来ている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と十分な話し合いを何度も持ちながらホームでの看取りとなるか、ホームで支援出来るか、難しいかをその都度話し合い、本人が望む事を大切に支援している。	医師との連携等、終末期対応のマニュアルが作成されている。本人・家族の気持ちを第一義として、ホームがわが家である以上、最後まで住み続けることを基本方針としている。重度化した場合には、その時点で家族と相談することになっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は応急手当及び初期対応の練習を消防署にて研修を受けている。又、マニュアルを作成し、実践出来るようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は、全員が避難できるように訓練を行い、隣地の協力を得て1ヶ所非常門扉を増設できた。また、地域での防災訓練にも、参加している。	防災管理担当者は年間防災計画を作成している。火災、地震発生も想定して夜間避難訓練を予定したが、夜間は怪我等の危険も有り日中に変更した。消防署に来てもらい、今年は近隣にも参加を要請する予定である。お隣さんのご協力により非常脱出口が設置出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛け、及び対応に努力している。月間目標などを作り、スタッフが気に掛け、実行している。	プライバシー取扱いマニュアルを設け入居者の個人情報保護している。呼びかけ等会話の基本を研究しており、尊敬の念を持った丁寧な言葉使いで、入居者の誇りと人格を尊重している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中庭を利用し、緑のカーテン作りをして、いつでも眺めたい時、水やりの工夫で米のとき水が必要だったり、いろいろなアイデアを出したりしながら利用者の自己決定を大事にして来た。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床が遅くなる方に対しては起床した時に朝食となるように配慮している。入浴の時間も順番に関係なく快く応じられた方から行ったり、朝からの時及び夕食前後の時もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ファッションショー等も取り入れたり、理容院の訪問等があり、その人に合ったその人らしいおしゃれな身だしなみを楽しんでいます。又、女性の方は行事の時はお化粧等を楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人一人の好みを尋ね、それを活かして楽しんで頂く。又、利用者と共に職員と一緒に食事の下準備、後片付け等行っている。誕生日会、行事等は入居者に希望を聞き、献立を作成している。	献立は入居者と一緒に作り、食事の雰囲気には気を配っている。大根・人参のなますは彩が良く、季節の野菜物を多く取り入れ料理の工夫も良い。秋刀魚の骨を取ったり、細かく切ったりその人の咀嚼・嚥下能力に合わせ食べやすい配慮がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量を記録し一日の状態を把握している。9時頃には緑茶、10時には、オーダーで飲み物、15時には、お茶とお菓子等に対応し、出来るだけ全員が水分1000cc以上になる様に心がけている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診も要望に応じ受診している。又、毎食後の口腔ケアで手順が分からなくなってきた方には職員が付き添って援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況により、紙パンツになった方も、時間を見てトイレ誘導を行い布パンツに戻れるよう、スタッフが細やかな情報のやり取りをしながら自立に向けた支援をしている。	排泄パターンを記録し、チェック表を張り出し、トイレ終了後に職員がさりげなく片付けて、排泄自立を支援している。トイレには入居者が新聞紙で作ったごみ入れが置いてあり、パッド等をそのままさりげなく処分できる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、排便-3日目より、朝・起床時コップ一杯の冷牛乳、及び水分摂取、3回/日の腹部運動を心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間を気にする事がない様、出来るだけ声掛けをしたり、一度ことわられたときも、又時間を置いて声かけをする事で楽しめるよう支援をしている。	重度の人は職員二人で入浴介助し、時間を気にせずゆっくりと世間話し等をしながら、楽しい入浴ができています。気が向かない人には日にちや時間を変えて、気分の良い時に入って頂き、入浴を楽しむ支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じ、眠れない方に対しては夜勤のスタッフと会話をしたり、暖かい飲み物を一緒に飲みながら、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診をする都度、薬が変更になる方や錠剤の飲み込みが難しくなっている方に対して、薬局と相談したり、Driに伝え粉末状にしてもらう事で薬を飲めるようスタッフ間で情報を共有して支援をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	父の日にバーマンにておやつ等を食したり、誕生日会、慰問、レクリエーション等での気分転換の支援に努めている。役割、分担表等を作り、いつも同じ仕事が自分の仕事となるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	症状の安定を図りながら、出来るだけ戸外で過ごせるよう努める。(4月花見、6月紫陽花見学、11月紅葉見学に出かける。旧津山機関車庫へコンサートを聴きに行く。	天気の良い日には、庭に出たり畑に行ったり散歩に出掛けたりと、外気に触れようとしている。自然に出来た2つの散歩コースを回っている。車椅子の人にも、一緒に歩けるように声掛けして、季節に触れる外出を楽しむようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先では本人の希望での使用、又買い物同行にて、援助を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、事務所の電話を利用出来る様にし、掛けたい時にお使い頂いている。手紙・葉書・物品等は本人にお渡しし、返事の書ける方には書いて頂き一緒ポストに入れに行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、四季四季に応じた飾り付けを行い居心地良く過ごして頂けるよう工夫を凝らしている。天窓から雲の流れ、中庭から雨や雪の様子を見たり朝顔、ゴーヤ等を植え大きくなる様子や収穫を楽しんでいる。	入居者には裁縫の得意な人もあり、季節に合った創作品や写真が飾られている。天窓からは上空の天候が視認でき、季節の移り変わりが感じられる。ソファ・畳のコーナーもあり、食後ゆっくり過ごす人も二・三人おり、居心地良い共有空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるようソファ、リビング、居室での工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、好みの物を持参して頂き居心地よく過ごせるよう工夫している。(置き時計で時間を伝えたりしている)	本や雑誌・アルバム・写真・ペン立て等の馴染みの小物や、衣装ケース・テレビが持参され、消臭効果のある人工観葉植物とか、ポータブルトイレを置いている部屋もあり、居心地良く過ごせる配慮が感じられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等を解り易くしたり、居室に名前を書いたり、目印を設ける等、自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301016		
法人名	有限会社 すえ広企画		
事業所名	グループホーム じーちゃん・ばーちゃんのお家		
所在地	岡山県津山市大谷295-1		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301016-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成24年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者側に立って、考える事をモットーとし、ホームでの生活が本人にとって居心地が良く、生き生きと生活して行けるよう、スタッフが全員同じ考えでケアする事を目指している。施設を感じさせない建物や芝生の庭にベンチとテーブルがあり、天気の良い日には外での食事を楽しんだりでき、鶴山公園の桜や夏の花火が良く見える。四季を通し、景色を楽しむ事ができる。又、隣には畑があり、野菜の収穫も一緒に行っている。</p>

<p> </p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引き継ぎの前に当ホームの理念「地域との交流を持ち諦めを希望に変える様に支援致します」を声に出し唱え、入居者の方達が自信を持つにはどの様にしたら良いかを常に研究し、努力している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が散歩の途中に声を掛けて下さったり、小さい子供達との触れ合いも楽しみにしている。近所から皆さんと、柿や無花果等を頂いたり、又、ホームで作ったゆずジュースをさし上げたりと交流が広がっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー実習の受け入れや医療関係者の見学、地域の方の見学等を通し、ホームでの工夫や対応の仕方等を話し合いながら教えたりしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者に関する活動内容報告並びに職員に関する活動内容及び家族への勉強会等を行っている。又、家族、市、職員と共に話し合いながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、社協、市との連携を常に持ち積極的にケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が会議の中で、話し合いを持ち、禁止事項を事務所に貼り、身体拘束をしない・ならないような工夫を常に考え、取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、管理者、職員は高齢者虐待防止法を学び事業所内での虐待及び帰宅された時、虐待がなかったか等調べている。利用者への言葉掛けにも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び、成年後見制度について学び、活用している。必要としている家族に対し支援し、今現在制度を活用している家族に対し援助している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡しており、契約の時には質問等を受ける時間を取り、説明を行っている。改定等の際には、運営推進会議の中や書類で説明をし、いつでも質問が受けられるようにして、納得が出来るように図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通し、家族、管理者、職員、市職員等の出席により意見、要望を受けながら運営に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の定例会議及びミーティング並びに主任会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。会議録には、全員が周知した型として印を押している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の努力、実績、勤務状況の把握、及び各自が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内外部及びキャリアアップ研修を取り入れ、月1～2回の研修を行っており、職員同士、声を掛け合い、熱心に研修をしている。資格取得に向けた研修や、実技による研修参加も行ってきた。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加しサービスの質の向上に積極的に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し安心して過ごして頂けるよう毎日の申し送りで伝え、より良い関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長、管理者は、電話や面会時に声をかける事で、家族等が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、可能な限り相談に乗れるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時には、相談の上随時、サービスの変更が出来るよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花の水やり、花壇の手入れ、畑での収穫及び畑仕事、買い物同行、散歩、食事の下準備、洗濯物干し、後片付け、手すり・ソファー拭き等、出来る事は職員といつも一緒に行うよう努力している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から、外泊、外出の申し出や本人から家庭への電話の要望、体調不良の連絡や面会等には、家族・本人の絆を大切にし関係を保っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お祭り等で知り合いに会えるように支援したり、一緒に写真を撮ったり、はがき、手紙、電話、面会等が出来、又、馴染みの人や、馴染みの場所の情報を伝える事により、関係が保たれるよう支援をしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員はいつも気にかけて良い関係が保たれるように席替えをしたり、孤立しない様に、話に誘い一緒に話をしながら、個人個人を大切に支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方や家族から声をかけられてもらえるような支援をしたり、相談を受けたり出来る様に、訪問、面会、手紙等を出すように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的に話をする機会を出来るだけ作り、今の思いとどんな暮らしを望んでいるか、会話を楽しみながら把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について家族の情報や支援事業所等からの情報の把握をするよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力の現状を毎日の生活を通し、スタッフ間で情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員とミーティング、申し送りで話し合いながら意見、アイデアを生かし個人に即した方法や本人の気持ちを第一に考えた介護計画を作成するように努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌を2種類使用し、その方に合った日誌はどちらかをミーティングで話し合い、より細やかな現状を拾えるよう、又、計画を立てる上で担当者が中心となりアセスメントをし、計画を立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況及びその時々生まれるニーズに対応できるよう、余裕のあるスタッフの人数と、サービスの多機能化を考え工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている祭りに参加したり、ボランティアの来所にて踊りを一緒に踊ったり電子ピアノにて歌を唄う事を通して本人の力を発揮でき安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の要望を大切にし納得が得られたかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう同行したり、手紙を添えたりして支援している。又、1週間の体調を記録した受診カードで支援をしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職は密に連携を取り利用者が適切な受診や、往診看護が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換及び相談に努め病院の入院、退院時には添書の交換を行っている。又、退院にあたっては、病院に行きホームでの生活がスムーズに出来るよう情報を貰って来ている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と十分な話し合いを何度も持ちながらホームでの看取りとなるか、ホームで支援出来るか、難しいかをその都度話し合い、本人が望む事を大切に支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は応急手当及び初期対応の練習を消防署にて研修を受けている。又、マニュアルを作成し、実践出来るようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害の避難訓練は、全員が避難できるように訓練を行い、隣地の協力を得て1ヶ所非常門扉を増設できた。また、地域での防災訓練にも、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛け、及び対応に努力している。月間目標などを作り、スタッフが気に掛け、実行している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中庭を利用し、緑のカーテン作りをして、いつでも眺めたい時、水やりの工夫で米のとき水が必要だったり、いろいろなアイデアを出したりしながら利用者の自己決定を大事にして来た。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床が遅くなる方に対しては起床した時に朝食となるように配慮している。入浴の時間も順番に関係なく快く応じられた方から行ったり、朝からの時及び夕食前後の時もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ファッションショー等も取り入れたり、理容院の訪問等があり、その人に合ったその人らしいおしゃれな身だしなみを楽しんでいます。又、女性の方は行事の時はお化粧品等を楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の一人一人の好みを尋ね、それを活かして楽しんで頂く。又、利用者と共に職員と一緒に食事の下準備、後片付け等行なっている。誕生日会、行事等は入居者に希望を聞き、献立を作成している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量を記録し一日の状態を把握している。9時頃には緑茶、10時には、オーダーで飲み物、15時には、お茶とお菓子等に対応し、出来るだけ全員が水分1000cc以上になる様に心がけている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診も要望に応じ受診している。又、毎食後の口腔ケアで手順が分からなくなってきた方には職員が付き添って援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況により、紙パンツになった方も、時間を見てトイレ誘導を行い布パンツに戻れるよう、スタッフが細やかな情報のやり取りをしながら自立に向けた支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、排便-3日目より、朝・起床時コップ一杯の冷牛乳、及び水分摂取、3回/日の腹部運動を心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間を気にする事がない様、出来るだけ声掛けをしたり、一度ことわられたときも、又時間を置いて声かけをする事で楽しめるよう支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じ、眠れない方に対しては夜勤のスタッフと会話をしたり、暖かい飲み物を一緒に飲みながら、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診をする都度、薬が変更になる方や錠剤の飲み込みが難しくなっている方に対して、薬局と相談したり、Drに伝え粉末状にしてもらう事で薬を飲めるようスタッフ間で情報を共有して支援をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	父の日にバーマンにておやつ等を食したり、誕生日会、慰問、レクリエーション等での気分転換の支援に努めている。役割、分担表等を作り、いつも同じ仕事が自分の仕事となるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	症状の安定を図りながら、出来るだけ戸外で過ごせるよう努める。(4月花見、6月紫陽花見学、11月紅葉見学に出かける。旧津山機関車庫へコンサートを聴きに行く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先では本人の希望での使用、又買い物同行にて、援助を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、事務所の電話を利用出来る様にし、掛けたい時にお使い頂いている。手紙・葉書・物品等は本人にお渡しし、返事の書ける方には書いて頂き一緒ポストに入れに行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、四季四季に応じた飾り付けを行い居心地良く過ごして頂けるよう工夫を凝らしている。天窓から雲の流れ、中庭から雨や雪の様子を見たり朝顔、ゴーヤ等を植え大きくなる様子や収穫を楽しんでいる。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになったり、気の合った利用者同士で過ごせるようソファー、リビング、居室での工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、好みの物を持参して頂き居心地よく過ごせるよう工夫している。(置き時計で時間を伝えたりしている)		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等を解り易くしたり、居室に名前を書いたり、目印を設ける等、自立した生活が送れるよう工夫している。		